

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078400092		
法人名	医療法人八女発心会		
事業所名	グループホーム舞風台		
所在地	福岡県八女郡広川町大字水原1498番地		
	電話	0943-32-3555	FAX 0943-32-1451

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年9月15日	評価確定日	平成19年10月5日

【情報提供項目より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	22人	常勤	18人、非常勤4人、常勤換算12.6人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り		
	1階建ての	1階～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800円	その他の経費(月額)	11,040円(光熱費等)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	250円	昼食 300円
	夕食	350円	おやつ 円
	1日 900円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

登録人数	25名	男性	6名	女性	19名
要介護1	8名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.8歳	最低	77歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人合原会合原医院 白谷歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム舞風台は広川町を見下ろす高台で広大な敷地の介護老人保健施設の一角にある3ユニット平屋のグループホームである。ホームの理念に「やすらぎ 思いやり 連帯」を掲げ、介護老人保健施設併設のデイケアからグループホーム入居に至る場合もあるが、入居希望がある場合はできるだけ早くホームの生活に馴染んでもらえるように、自宅や入院先に訪問し本人の心身の状況や生活歴・職歴を把握している。デイケアの電気治療器の活用や敷地内の遊歩道の散歩、かかりつけ医による定期的な往診による健康管理で、入居者はそれぞれ個性的に生活している。今夏念願であった自治会加入を好機と捉え、各ユニットの管理者等はまず地域の缶ひろいに参加し、遊歩道やホーム周辺を散歩している近隣の方々との交流、隣接するリハビリテーション学院生や保育園・小学校との交流等を通じて認知症及び認知症ケアを周知したいと話している。また、介護老人保健施設との連携で行事や職員の研修に取り組み、ケアの質の向上を目指すとともに、非常災害時や緊急時の協力体制を構築している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を活かして、金銭出納帳に家族のサインを整備したり、夕食時間を検討するための話し合い、注意の必要な物品が置かれた洗濯室や浴室の施設、安全な入浴を支援するためのキャスター付きシャワーチェア等の購入等を実践している。また、グループホームへの理解や協力をお願いしたいと自治会に加入している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は3ユニット全体で取組み、全職員に記載した自己評価票を回覧している。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	2ヶ月毎に適切なメンバーによる運営推進会議を開催し、グループホームの利用料金等の説明や入居者の生活や行事等を報告し、出席した家族等の質問や意見を記載しているが、運営推進会議に関する規程がない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者の暮らしぶりは、家族等が訪問した折や「ホームたより」で伝えている。毎週水曜日の主治医往診時の指示や説明は、受診ノートに記載し随時家族に連絡している。日用品購入の預かり金は、個別の出納帳を作成し、家族のサインがある。職員の交代等は適宜入居者や家族に伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	今年8月に念願であった自治会に加入し、地域の缶拾いに参加する予定である。隣接する同法人運営の介護保健施設と合同で開催した夏祭りを地域に案内したり、民生員や隣接するリハビリテーション学院生のボランティアが来所したり、保育所・小学校との交流がある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「やすらぎ 思いやり 連帯」を3ユニットの共用 ホールに大きく掲示しているが、運営規程・入居契約書・重要事項説明書に、今回の法改正である「地域との交流の下」の記載がない。	○	運営規程・入居契約書・重要事項説明書の方針に「地域との交流の下」を謳うことで、入居者・家族・職員等にグループホームが地域密着型サービスであることの理解を深めていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を定例会議やミーティング等で話し合い、近隣の方がホーム周辺を散歩されている場合は声掛けするなど、地域との交流を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年8月に念願であった自治会に加入し、地域の缶拾いに参加する予定である。隣接する同法人運営の介護老人保健施設と合同で開催した夏祭りを地域に案内したり、民生員や隣接するリハビリテーション学院生のボランティアが来所したり、保育所・小学校との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は3ユニット全体で取組み、全職員に記載した自己評価票を回覧している。前回の外部評価に沿って、改善に向けて話し合いをしているが、全職員で理念等を話し合うことがケアに活かされ、家族から信頼を得つつあると感じている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に適切なメンバーによる運営推進会議を開催し、グループホームの利用料金等の説明や入居者の生活や行事等を報告し、出席した家族等の質問や意見を記載しているが、運営推進会議に関する規程がない。	○	円滑に運営推進会議を実施するためにも、実施要領等の規程の整備をお願いしたい。また、会議資料の整備とともに、今回の外部評価結果の報告や検討をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の依頼で中国の姉妹都市の小学生の施設見学を受け入れたり、ホームの機能を地域に還元するために、ホームの活用について町に相談している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	2名の入居者が入居以前から成年後見制度を活用している。重要事項説明書に成年後見制度等の活用を明記し、入居時に説明しているが、パンフレット等の説明資料がない。	○	成年後見制度等のパンフレット等を整備し、よりわかり易い説明をお願いしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりは、家族等が訪問した折や「ホームたより」で伝えている。毎週水曜日の主治医往診時の指示や説明は、受診ノートに記載し随時家族に連絡している。日用品購入の預かり金は、個別に出納帳を作成し家族のサインがある。職員の交代等は適宜入居者や家族に伝えている。	○	往診結果等を家族に連絡した記録や入居者の健康管理のため定期健康診断受診をお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関やホームの苦情担当窓口を明記し、共有空間に掲示したり、ご意見箱を設置している。ご意見箱には家族等の投稿はないが、運営推進会議に出席した家族代表から率直な意見がある。	○	運営推進会議では家族代表から率直な意見があるので、家族会の発足を相談されてはいかがでしょうか。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が運営者と話し合う機会が少ないが、管理者は新規採用職員が徐々に入居者と馴染みになれるように、他の職員とともにケアに関わってもらったり、様子を見ながら夜間帯勤務にしている。	○	運営者研修受講により、さらなる職員の異動や離職の防止を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用はハローワークを活用しているが、管理者は接遇や高齢者を敬う気持ちが伺える方を職員に採用したいと話している。雇用契約書・就業規則の整備や職員の休息の場も確保され、職員がいきいきと働ける環境作りをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	隣接する介護老人保健施設と合同の身体拘束廃止委員会が活発に活動し、職員の人権意識は高いが、人権研修実施や研修参加はない。又、高齢者虐待防止マニュアルがない。	○	介護従事者の人権学習は必須であるので、法人内外の研修参加が求められる。又、高齢者虐待防止マニュアル作成し研修の実施をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する介護老人保健施設と合同の3部門の委員会で活動しているが、年間研修計画がない。新規採用職員研修は管理者が実施しているが、フローチャートや記録がない。	○	3部会の活動内容に沿って年間研修計画を作成し、職員の段階に応じた研修実施をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連合内のグループホーム部会に加入し、事例発表や他ホームの視察等で意見交換や交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居もできるが、入居者の状況を把握するために、入居希望者の自宅や入院先に訪問している。同法人運営のデイケアから入居に至る場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員採用時は、高齢者を敬う気持ちがあることを条件としているが、その気持ちで入居者に調理の下こしらえ等を教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の職歴や生活歴、基本情報、心身の状況等のアセスメントに基づき、施設サービス計画書第1表に入居者の意向を記載している。	○	認知症対応型共同生活介護は居宅サービスに位置づけられるので、施設サービス計画書様式の活用について保険者に問い合わせをお願いしたい。また、入居者の意向や思いを週間サービス計画書に明記していただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者の心身の状況をアセスメントしているが、抽出した課題と第2表の課題分析が連動していない介護計画がある。担当者会議等の入居者・家族等・職員による話し合いで介護計画を作成しているが、週間サービス計画書に個別的なサービス内容を記載していない。	○	アセスメントシートを有効に活用し、個別的・具体的な計画書作成をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	施設サービス計画書を作成し、入居者や家族に説明し了承を得ている。ケアプラン実行表を作成し毎月モニタリングしているが、定期的な介護計画の見直しに至っていない。又、全課題をモニタリングしていない。	○	第2表に記載された全課題のモニタリングや定期的な介護計画の見直しが求められる。また、介護支援専門員は、日々の業務のモニタリング内容を月に1回まとめて支援経過に記載してはどうかでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、同法人運営のディケアの電気治療器を活用したり、家族の状況に応じて他の医療機関受診を支援し、健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関の受診支援や主治医の往診で健康を管理している。往診時の指示等は、連絡ノート等で職員に周知し、状況に応じて家族に連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療ケアに関する同意書を作成し、医療連携、健康状態や病状の把握、終末期(看取り)のケア等について説明している。重篤な疾患の入居者もあり、行き届いたケアを実践しているが、病状から予測される今後の生活について管理者等と家族のやりとりを記録していない。	○	重篤な疾患の入居者の穏やかで安楽な生活を支援するために、主治医、家族、職員による話し合いに基づく具体的な介護計画の作成や日ごろの入居者や家族とのやりとりの記録をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務及び個人情報を用いる同意書を作成し、入居者や家族等に説明し了承を得ているが、家族への書面の配付や共有空間等への掲示がない。職員の勤務規程に守秘義務やプライバシーの保護を明記している。	○	個人情報に関する規程等を入居者や家族に配付するとともに共有空間等への掲示をお願いしたい。車いす等が利用しやすいように最近トイレのドアをカーテンに替えているが、排泄時のプライバシーや羞恥心を配慮した工夫をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の起床時間や行動パターンに合わせた食事の提供等、入居者のペースを大切にしたケアを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状況に応じて食卓を分け、全職員が同じ食事を食べながら見守り、声かけ、食事介助等をしている。下準備や片付け等ができる入居者には声をかけ、係わりを支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表を作成し、最低週2回入浴している。入居者の心身の状況に応じて大・小浴槽を使い分けたり、シャワー浴を選んでもらうなどの工夫をしている。入浴拒否者は個浴を勧めたり、排泄援助から入浴を勧め、現在は全員が入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の職歴・生活歴から、料理・園芸等の楽しみごとを支援したり、食事の準備等で役割を担ってもらっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花見等のおおまかな年間行事計画に沿った外出やホームの広い敷地内の遊歩道を活用して散歩をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット毎の簡易玄関は、日中は施錠していない。外出傾向のある入居者は見守りで対応している。以前外出傾向にある入居者の行方を地元の方から連絡を受けたこともある。ホームが森の中にあるので、消防署には協力をお願いしている。	○	8月から自治会に加入しているので、近隣や警察等に更なる理解や協力をお願いしていきたい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時に備えて連絡網・役割分担表を事務室に掲示し、年2回隣接する介護老人保健施設と合同で非難訓練を実施している。各ユニットに消火器を設置し、台風等の災害に備えて食品等を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記載はあるが、水分摂取量や摂取カロリーの把握がない。既往症に応じた食事支援や嚥下・咀嚼状態に応じて食形を工夫している。定期的に体重を測定している。	○	隣接する介護老人保健施設の管理栄養士等に協力をお願いして、栄養バランスやおおまかな食事カロリーの把握や記録をお願いしたい。又、水分摂取量の記載もお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの共有空間に厨房、洗面台が設置され、中央には食事用のテーブルや椅子、壁際にソファや食器棚があり、季節の花が活けてある。各ユニットの簡易玄関の脇の畑は季節の野菜が植えられ、食材にしている。不快な音や匂いもなく、空調の温度設定も適切である。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・箆笥はホームの備え付けであるが、入居者の起居動作に応じて、ベット柵が使用できるベットを隣接する介護老人保健施設と交換したり、入居者の好みで畳も活用している。遺影、椅子、日常品等の持込もあり、個別的な居室である。		